

今夏季の節電対策について

今年、梅雨入り梅雨明けとも、例年より2週間近く早く、早々に盛夏となりつつありますが、熱中症等の体調管理に充分配慮し、安全衛生管理にもより一層の注意をお願いします。

さて本題に入りますが、発行日6月26日の通達C・011号「平成25年夏季・節電方針」の中にも記載している、当社の今夏季の節電への基本的スタンスと取り組みについて、皆さんによりご理解いただくため、チャレンジ通信の場を借りて再度説明したいと思います。

●今夏季の電力事情

政府は今夏季の電力事情について、「2011年3月の東日本大震災以降、二度の夏季を経た現在、ある一定程度の節電意識・取り組みが広く定着したと見込まれる。この節電状況が今夏も持続されれば、2010年並みの猛暑となつた場合でも、いずれの電力管内でも、電力の安定供給に最低限必要とされる電力予備率3%以上を確保できる見通し。」との趣旨の見解を発表しています。

ここで、政府が「定着している節電」と見込んでいるのは、震災前かつ猛暑だった2010年対比で(下記表A)のとおりです。また、当社店舗の電力使用量を2010年度と比べたものが(同表B)ですが、みなさんのご協力もあり、世間一般の定着節電率と同等以上の成果をここ2年間あげてきたことがご理解いただけると思います。



(表A)

電力管内	関西電力	東京電力	中部電力
定着節電率	▲9%	▲10%	▲4%

(表B)

年度	2011年度	2012年度
当社店舗の節電率	▲10%	▲14%

●当社の今夏の節電方針

以上の電力事情および当社店舗のお客様数が今季増加している傾向を考慮して、環境対策委員会は今夏(7月~9月)の節電方針を

『具体的な数値目標は設定しないが、店舗については昨年改定した「店舗省エネガイド」を徹底し、本社等事務部門については、来年度以降の改善につながる様に、新事務所内のエネルギー使用状況を記録する』
としました。

通常なら、お客様数が増加すれば、

電力使用量は増加するものですが、「電力使用増加はしかたがない」ということではなく、必ず方針の通り「店舗省エネガイド」を意識し、日々の営業を行ってください。

●最大デマンド値と電気基本料金の関係について
稼働している原発が17原発50基中で2基のみという現在、重要視されているのは、単に電力使用量を減らすだけではなく、電力需要ピーク値を低めることで

す。電力需要ピーク値が限界を超えると「停電」ということになるからです。噛み砕いて言えば「弱い風が吹き続けても倒れない建物でも、瞬間最大風速値が限界を超えれば倒れてしまう」と同じような理屈です。

容易に想像がつくように、年間を通じて国内で一番電力需要が高まりピーク値が大きくなるのは「夏の昼間」です。当社店舗も例外ではなく、7月・8月の昼間が必要電力のピークを迎えます。したがって、この時間帯に使われる電力を減らすことが「停電」を

防ぐという意味で社会貢献につながります。

そして、ぜひ覚えて欲しいのは、**その夏に記録した必要電力の最大ピーク値**（厳密には30分間の電力量の総和で最大デマンド値といいます）が、その店舗のその後1年間の電力の基本料金を決定します。ここでは「瞬間最大風速が高まれば建物が倒れる」と同じように、「瞬間最大電力が高まれば基本料金があがってしまう」わけです。

つまり、普段いくら節電していても、夏のほんの30分間、電力を必要以上に使ってしまったことによつて、その後1年間の電気代がグンとアップすることもある料金体系になっているのです。

●「節電」とは？

以前は、単に「電力を必要以上に使わないようにする日々取り組み」という意味合いで用いられていた「節電」ということばですが、現在、「節電」に必要な要素は、「減らす」「ずらす」「替える」だとされています。

当社、店舗でこれらにあたるものはどういう取り組みでしょうか？



「減らす」…これは、従来の意味と同じで「電力を必要以上に使わないようにする日々取り組み」です。フィルター清掃・パッキン取り替え、閉店時のロールスクリーン使用など「店舗省エネガイド」を徹底していただくことで、実現できます。



「ずらす」…これは前項の「デマンド値」が高くなるないようにする工夫です。これも「店舗省エネガイド」に記載していますが、「電力消費量の多い厨房機器があるだし取りディスプレイサーであるだし取りディスプレイサーでの仕込作業やマイクロ波炊飯器の使用を、13時～16時（電力ピークとなる時間帯）の間は原則控えるようにする」といった工夫がこれにあたります。



「替える」…これは、高効率の省エネ機器に「替える」という意味です。昨年度、当社は既存店の店内蛍光灯をすべてLED化し、先行していたスポット灯などのLED化も併せ、ほぼ店内照明のLED化を実現しました。また、省エネ効果の低い古いタイプの空調機の高効率省エネタイプへの更新も随時実施しております。

●最後に

本原稿を作成している時点で、連日35度を超える最高気温を記録しており、猛暑といわれた2010年を超える酷暑の夏になる可能性があります。店長におかれましては、万が一に備え、昨年追加作成されたストアマネジャーマニュアルの「停電関連項目」も見直しておいてください。

お客様も増え、さらに忙しくなっている昨今、体に無理のない範囲で、コツコツと小さな工

夫をつみあげていくことでの夏を乗り切りましょう。